

# 進路だより二月号

2020.2.12

## 諦めるの意味とは？

早いもので、既に二〇二〇年も一か月が経過した。能勢分校の生徒はこの一か月をどのように過ごしただろうか。

三十一日、七百四十四時間、四万四千六百四十分、二百六十七万八千四百秒、どれだけの時間が、自分自身の進路に向いていたか一度振り返ってみるといい。

入学時には「予習復習」「グローバル」「農業」「社会で役立つ知識」「部活」等の言葉を使って能勢分校に入試に臨んだ中学生。書類を書かされた、面接で言わされてはないはずだ。

それが入学するや否や「勉強

第一」はどこ吹く風、奇声をあげて騒ぎ、スマホをいじるか、ゲームの話しかしない、時間ギリギリに廊下を暴走…「高校生とはどうあるべきか」もう一度考え直すべきではないか。



諦めるとは元々「明らかにすること」だ。何かを明らかにすることは難しいのは誰でも分かる。だが、「諦める」のが簡単だと思っ

## 新テストの怪

遂にセンター試験が終わった。賛否両論あったものの、三十一年続いたことは、それが日本の教育で一つの大きな意味を持っていたことは間違いないだろう。

次年度からは、今まで以上に「論理的思考力」を問う「大学入学共通テスト」が始まる。

しかし、どうだろう。「論理的思考力」とは言うものの、それが何なのか明確に答えられる人は何人いるのだろう。明確にはわからないが、「大事なような能力」そんな感じではないだろうか。

新テストのみならず、学校では「何のために学ぶのか」と思うことがあるのも当然だ。だが、その答えが出ないことは「役に立たない」とではない。物事に答えを出すのは自分自身だ。今、答えが出せない意味を考えて欲しい。

## 能抄 「労働の美しさ」

ある晴れた風の吹きすさぶ冬の朝、授業が始まって誰もいないはずの足音が始まる。「カシャ！カシャ！」という音がする。一体何人の生徒がこの音に気付いているのだろうか。この音は何かと外を見つめると、体育の武田先生、その人だ。生徒が飲んで捨てたペットボトルのラベルを一つ一つ剥がし、キャップを外し、ボトルの部分を足で潰してそれぞれまとめていく。中身が入っているものは当然捨ててから処理。

風にボトルが飛ばされ、一々それを拾いに行く。何人がこの姿を知っているのだろうか。そのときは武田先生一人だったが、他の先生もやっておられるに違いない。「エコ」な活動に感動したのではない。誰も見ていない所で、黙々とペットボトルを潰す姿は美しかった。と同時に、ストープの恩恵を受けながら仕事をして、「疲れた」と思っている自分が恥ずかしかった。

## 特集：社会人とはどうあるべきか？

### 喜・楽



嬉しいこと・楽しいことしかしたくない気持ちはわかりますが、理想は理想です。そろそろ現実に戻りましょうか。「やりたいことを見つける」という言い訳は無駄に時間を消費するだけです。考えるフリをする前に行動を。



### 怒

学校では、嫌いな先生に挨拶をしなかったり、「イライラしている」アピールをしたりしても、先生はそれを察して、そっとしてくれるかもしれません。ただ、社会に出たら、そっとしておかれるのではなく、見捨てられます。心当たりのある者は注意を

### 哀

感情があるのが人間です。しかし、制御しないといけません。一時の感情が全てを破壊することもあります。喜怒哀楽全て感情はあって自然ですが、高まりすぎるとロクなことになりません。働き始めたら一々感情を大きく動かしては話になりません。今の内から人に迷惑をかけない感情のコントロールを学びましょう。



#### 高校入試

二月中旬

この期間を「休み」で無駄にするかは本人次第。

#### 学年末考査

三月二日～六日

年間最後の考査。実力発揮出来るか？

#### 卒業式・閉校式

三月三日(火)

能勢分校生は何を受け継ぐのか？

#### 編集後記

今回「進路だより」は新聞風にしてみました。レイアウトを変えたら読者が増える、そんなことを願って試行錯誤しています。ぜひ、ご一読を。HPにも載っています。

